

令和 6 年度事業報告
(令和 6 年 7 月 1 日～令和 7 年 6 月 30 日)

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議

1. 基本方針

「特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議」（以下「研究会議」という。）は、平成 25 年 4 月 1 日に「瀬戸内海研究会議」を改組し、特定非営利活動法人として発足した。研究会議は、新たな組織体制のもと、瀬戸内海的环境を取り巻く情勢変化に対応し、次の基本方針に基づく諸事業を推進している。

- (1) 研究会議は、自然科学はもとより社会科学、人文科学等を含めた学際的な集団であり、また、学・産・官・民の研究者等の集合体でもあることから、会員の研究発表及び会員相互の情報交換の場として組織の充実を図る。
- (2) フォーラムやワークショップを開催するなど、調査・研究の成果及びその他の関連情報（環境保全・創造をはじめ、地域づくりや観光・産業の振興等を含む。）の交換と普及を図る。
- (3) 瀬戸内海的环境の保全と適正な利用について研究し、必要な提言を行う。
- (4) 国、地方公共団体等が行う瀬戸内海に関する調査・研究に協力するとともに、助成財団等からの調査・研究助成の獲得に努める。
- (5) （公財）国際エメックスセンターが行う世界の閉鎖性海域環境保全活動への参加、協力を行うとともに、関係団体と交流し、学際的な情報と技術の交流を図る。
- (6) （公社）瀬戸内海環境保全協会が実施する調査・研究・教育及び普及啓発に係る各種事業に対して、必要な助言及び支援を行う。

2. 特定非営利活動に係る事業

(1) 調査研究に関する事業

①「瀬戸内海的环境保全・創造に係る研究委託事業」の実施

ア 「令和 6 年度瀬戸内海的环境保全・創造に関する研究」の実施

研究会議は、瀬戸内海環境保全知事・市長会議（以下「知事・市長会議」という。）からの委託を受け、瀬戸内海的环境保全・創造に係る研究を実施した。

(7) 研究期間 令和 4 年度～6 年度

(4) 研究テーマ及び実施方法

令和 4 年度に公募し、採択した 3 件のテーマに対して助成し、研究を進めた。
採択した研究者、テーマ、助成額は以下のとおり。

テーマ 1 瀬戸内海の水質汚濁低減がもたらす低次生態系の変化に関する研究

研究者：吉江 直樹（愛媛大学先端研究院先端研究高度支援室 准教授/URA）

設定テーマ：瀬戸内海における水質汚濁の時間変動に伴う低次生態系応答に関する研究

助成額：150 万円／年

テーマ2 瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究

研究者：原田 禎夫（同志社大学経済学部 准教授）

設定テーマ：海洋プラスチック汚染の防止に向けた陸域におけるプラスチックごみの散乱状況の把握と流出防止策の研究

助成額：150 万円／年

研究者：石塚 正秀（香川大学創造工学部 教授）

設定テーマ：播磨灘南部を対象とした海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究

助成額：110 万円／年

(ウ) 推進体制

駒井 幸雄（総括）、西川 哲也（テーマ1 担当）、磯辺 篤彦（テーマ2 担当）

(イ) 研究目的

テーマ1 瀬戸内海の栄養塩類濃度低下がもたらす低次生態系の変化に関する研究

瀬戸内海の栄養塩類濃度は、沿岸部と沖合部で異なり経年変化傾向も違うことが判明するとともに、栄養塩類濃度と海洋の基礎生産量の指標となる植物プランクトン量（Chla 濃度）の間には単純な応答関係は認められず、栄養塩類濃度の減少がそのまま Chla 濃度 に連動しているわけではないことが示された。

そのため、将来の高次生態系までを含む統合モデルの構築に向けて、低次生態系の栄養塩類と植物プランクトンの関連性について詳細に研究する。

テーマ2 瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究

瀬戸内海に流入した海洋プラスチックごみの起源と分布を明らかにするためには、数値モデルによるシミュレーションは有力な方法である。しかし、より精度の高いシミュレーションを行うためには、河川等を通して流入するプラスチックごみの負荷量などの基礎データを整備することが求められる。

そこで、瀬戸内海における海洋プラスチックごみに関わる知見を取りまとめ、実態調査結果と合わせて現在の流入負荷量を評価し、瀬戸内海におけるプラスチックごみの分布を明らかにするとともに、今後の海洋プラスチックごみ対策に向けた提言をする。

(オ) 事業の実施状況

R6. 12. 17	研究成果中間報告会（テーマ2） （第1回知事・市長会議とのWGも兼ねる）
R6. 12. 25	研究成果中間報告会（テーマ1） （第2回知事・市長会議とのWGも兼ねる）
R7. 2. 6	研究成果最終成果報告会 （第3回知事・市長会議とのWGも兼ねる）
R7. 3. 31	6年度事業実施報告書の提出

イ 「令和7年度瀬戸内海の保全・創造に関する研究」の受託

知事・市長会議から、「令和7年度瀬戸内海の保全・創造に関する研究」に係る業務を受託し、助成を希望する研究団体等を募集し、選考を行った。

- ・契 約 日：令和7年5月23日（金）
- ・募集期間：令和7年5月27日（火）～令和7年6月17日（火）
- ・選 考：令和7年6月23日（月）

②「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」に係る受託業務の実施

ア 令和6年度助成研究結果の報告及び成果発表会の開催

大阪湾広域臨海環境整備センターが創設した「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」により令和6年度に助成を受けた大学・研究機関等による研究の結果をとりまとめ、大阪湾広域臨海環境整備センターに報告を行った。

また、令和6年度に助成を受けた大学・研究機関等の成果発表会を開催した。

- ・日 時：令和7年5月2日（金） 13：30～16：30

- ・場 所：スペースアルファ三宮 大会議室
（兵庫県神戸市中央区）

- ・参加者：108名（うち、Web参加者69名）

- ・内 容

◆ 開会・挨拶

小島 洋一（大阪湾広域臨海環境整備センター常務理事）

◆ 個別発表

助成を受けた次表の大学・研究機関等から研究成果について発表があった。



発表順	発表者氏名	所 属 名	研 究 課 題 名
1	上田 萌子	大阪公立大学大学院 農学研究科	大阪湾沿岸における海浜植物の分布の変化と保全に関する研究
2	中谷 祐介	大阪大学大学院 工学研究科	瀬戸内海の COD 管理に資する起源別・形態別有機物の動態解析
3	坂井 啓明	東京大学大学院 理学系研究科	大阪湾における生物必須微量元素の環境－生態系循環解析(その2)
4	齋藤 光代	広島大学大学院 先進理工系科学研究科	流域からの栄養塩流出変遷が大阪湾沿岸の栄養塩収支に及ぼす影響の陸域－海域統合評価(その3)
5	廣瀬 孝太郎	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所	堆積物を用いた長期の沿岸環境変化とその駆動要因の解明
6	青木 伸輔	香川大学農学部	瀬戸内海・播磨灘全域における表層堆積の特徴：多彩な観測項目のアプローチ
7	近藤 健	大阪府立環境農林水産 総合研究所	新規簡易測定法による大阪湾底質の酸素消費速度の水平分布および季節変動

イ 令和7年度「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」に係る業務の受託

大阪湾広域臨海環境整備センターから、令和7年度の「大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度」に係る業務を受託し、助成を希望する研究団体等を募集し、選考を行った。

- ・ 募集期間：令和7年4月1日（火）～5月7日（水）
- ・ 応募件数：14件
- ・ 選 考：令和7年6月13日（金）

(2) 調査研究成果の普及・教育に関する事業

① 豊かな瀬戸内海に向けた提言集（報告書）の作成

令和5年が瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年であることを踏まえ、研究会議として、これまでの知事・市長会議からの委託研究の成果を「豊かな瀬戸内海の実現」の視点から包括的に検討、再編成し、さらに不足部分は補充して、提言集（報告書）を作成した。

令和6年7月開催の知事・市長会議総会で同会議に提出した。その後、出版に向けて再校正を行った。



② 瀬戸内海研究フォーラム in 大阪の開催

産・官・学・民による瀬戸内海に関する学際的な研究や事例発表・会員相互の交流の場とするため、令和6年8月28日に大阪府高槻市で「瀬戸内海研究フォーラム in 大阪」を開催した。

なお、8月29日の開催（第3～第5セッション）は、台風10号の接近に伴い安全面を考慮し中止したため、オンデマンド配信した。（11月6日～27日）

ア 実開催（8月28日分）

- ・ 日 時：令和6年8月28日（水） 13:00～17:50
- ・ 会 場：高槻城公園芸術文化劇場 北館
- ・ 参加者：183名
- ・ テーマ：大阪の地から考える瀬戸内海の将来像
- ・ 内 容

◆ 開会 13:00 ～ 13:20

趣旨説明 運営委員長：駒井 幸雄

◆ 基調講演 13:25 ～ 13:50

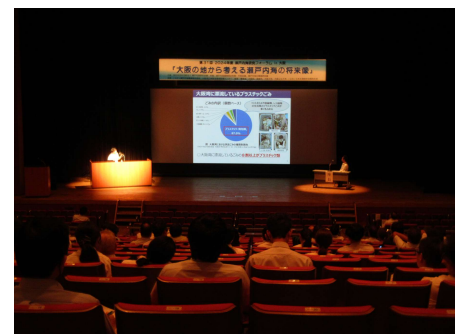
「瀬戸内海における環境政策～きれいで豊かな瀬戸内海の実現に向けて」

講演者：工藤 里恵（環境省 海域環境対策推進官）

◆ 第1セッション 13:55 ～ 15:40

テーマ：大阪湾の水質・ごみ問題の現状

座長：中谷 祐介（大阪大学大学院工学研究科 准教授）



☆ 貧栄養化に伴う瀬戸内海のCOD上昇

藤原 建紀（京都大学 名誉教授）

☆ 大阪湾の貧酸素水塊：これまでとこれから

入江 政安（大阪大学大学院 教授）

☆ 大阪府における海洋プラスチックごみ対策について

橋田 学（大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課 課長）

☆ 大阪湾で操業する底引き網における海底ゴミの入網状況と回収効率の推定

大美 博昭（大阪府立環境農林水産総合研究所 海域環境グループリーダー）

◆ 第2セッション（ポスターセッション） 16:00 ～ 17:20

テーマ：瀬戸内海及びその周縁に関する研究・活動報告

座長：森 育子（大阪府立環境農林水産総合研究所 主査）

☆ ポスター前発表：39件

（社会経済分野（活動主体）：12件、環境分野（研究主体）：27件）

☆ ポスター審査結果：

優秀賞5名 ※最優秀賞は該当者なし

入口 莉帆（香川大学）

「地域未利用資源である放置竹林を活用した竹あかりによる地域振興について～香川大学たどつまちLaboを事例として～」

宇野 早織（香川大学）

「地域連携による世代間交流に向けた取り組み～香川大学佛生山らぼプロジェクトを事例として～」

中西 美桜（大阪公立大学工業高等専門学校）

「大阪湾沿岸域の堆積物の炭素源資化能の特徴」

古木健太郎（大阪公立大学工業高等専門学校）

「半導体式ガスセンサーを用いた堆積物のメタンフラックス測定の基礎的検討」

奥下ちなみ（兵庫県立御影高等学校環境科学部）

「六甲山と神戸の海のつながりを考える」

◆ 総括・ポスター表彰式・閉会

17:30 ～ 17:50

◆ 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会 総会 17:55 ～ 18:30



イ オンデマンド開催（8月29日分）

- ・配信期間：令和6年11月6日（水）～11月27日（水）
- ・アクセス数：554回
- ・内容：

◆ 第3セッション

テーマ：海域特性に応じた漁業と環境改善の取り組み

座長：中嶋 昌紀（大阪府立環境農林水産総合研究所 理事）

- ☆ 大阪湾の水産資源の動向と新たな漁業の取り組み

安岡 法子（大阪府立環境農林水産総合研究所 研究員）

秋山 諭（大阪府立環境農林水産総合研究所 主任研究員）

- ☆ 大阪湾奥部に位置する淀川河口の漁業とブランド化の取り組み

畑中 啓吾（大阪市漁業協同組合 総務次長兼販売事業総括）

- ☆ 関西国際空港島における豊かな藻場環境の創造

大谷 優里（関西エアポート（株）技術総括部環境・空港計画Gマネージャー）

- ☆ 大阪湾生き物一斉調査17年間からみた海岸生物相の変化とその保全

鍋島 靖信（大阪市立自然史博物館 外来研究員）

◆ 第4セッション

テーマ：環境と漁業・食文化が調和した賑わいのある大阪湾

座長：矢吹 芳教（大阪府立環境農林水産総合研究所 主幹研究員）

- ☆ 「近くて遠い大阪湾」から「親しみのある大阪湾」へ

黒田 桂菜（大阪公立大学大学院現代システム科学研究科 准教授）

- ☆ 南泉州地域を中心とした水環境保全・創造に関する取り組み

岩井 克己（（株）漁師鮮度 代表取締役）

- ☆ 豊かな大阪湾をめざして ～大阪湾における令和の里海づくり～

和田 峻輔（大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課 総括主査）

◆ 第5セッション

テーマ：気候変動と大阪湾・瀬戸内海－生態系が受ける影響と与える影響－

座長：相馬 明郎（大阪公立大学大学院工学研究科 教授）

- ☆ 気候変動と栄養塩類管理が瀬戸内海の水環境に与える影響

～陸域－海域統合の視点から～

東 博紀（国立環境研究所 上席主幹研究員）

- ☆ プランクトンから見た瀬戸内海の現状と変換

西川 哲也（兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター 上席研究員）

- ☆ 物質循環を駆動する河口干潟の炭素固定機能の動態－淀川河口を例として－

大谷 壮介（大阪公立大学工業高等専門学校 准教授）

- ☆ 堆積物－水－大気の繋がりに見た豊かな海とブルーカーボン

相馬 明郎（大阪公立大学大学院工学研究科 教授）

③ 瀬戸内海的环境保全・創造に係る研究ワークショップの開催

知事・市長会議からの委託研究として、令和4年から、「瀬戸内海の栄養塩類濃度低下がもたらす低次生態系の変化に関する研究」、「瀬戸内海に流入する海洋プラスチックごみの起源と分布」に関する研究を行っており、これらの研究成果の中間報告を行った。また、同時期に実施中の環境省環境研究総合推進費「特定海域の栄養塩類管理に向けた評価手法開発」について、参加者との意見交換を通じて、今後の施策検討に資することとした。

- ・ 日 時：令和6年12月13日（金）12:30～17:00
- ・ 会 場：三宮研修センター 505号室（神戸市中央区）
- ・ 参加者：184名（23名が会場出席、161名がWeb出席）
- ・ テーマ：きれいで豊かな瀬戸内海の実現を支える研究の最前線
- ・ 内 容：

◆ 開会

趣旨説明 運営委員長：駒井 幸雄

◆ 第1部 「瀬戸内海的环境保全・創造に係る研究助成」 報告

- ☆ 瀬戸内海における栄養塩濃度の時空間変動に伴う低次生態系応答に関する研究

吉江 直樹（愛媛大学先端研究院先端研究高度支援室 准教授/URA）

- ☆ 海洋プラスチック汚染の防止に向けた陸域におけるプラスチックごみの散乱状況の把握と流出防止策の研究

原田 禎夫（同志社大学 経済学部 准教授）

- ☆ 播磨灘南部を対象とした海洋プラスチックごみの起源と分布に関する研究

石塚 正秀（香川大学 創造工学部 教授）

◆ 第2部 「特定海域の栄養塩類管理に向けた評価手法開発」 14:50～16:50

- ☆ 下水処理場の季節別運転が海域水質に及ぼす影響評価

西嶋 渉（広島大学 環境安全センター 教授）

- ☆ エンドメンバー分析による海域の水質への下水処理場放流水の寄与の評価

中井 智司（広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授）

- ☆ 広湾の季節別運転が植物プランクトンに及ぼす影響と効果

越川 海（国立環境研究所 地域環境保全領域 海域環境研究室 室長）

- ☆ 瀬戸内海・広湾の栄養塩類管理を対象とした影響評価モデルの開発と数値実験

東 博紀（国立環境研究所 上級主幹研究員）



④ 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムへの支援・協力

(公社)瀬戸内海環境保全協会が、会員の新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に実施している「瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム」の講師に関して、協力した。

- ・ 日 時：令和6年10月21日（月）～10月23日（水）
- ・ 場 所：愛媛県今治市 今治市民会館
- ・ 参加者：23名（10府県13市）
- ・ 内 容：

◆ 講義

- ☆ 瀬戸内海の海洋環境総論～豊かな海づくりのために
松田 治（広島大学名誉教授）
- ☆ 瀬戸内海における環境政策
森川 政人（環境省水・大気環境局海洋環境課 室長補佐）
- ☆ プラスチック汚染の実態解明に向けた市民科学の可能性
原田 禎夫（同志社大学経済学部 准教授）
- ☆ 瀬戸内海の環境変動と生態系の応答
吉江 直樹（愛媛大学先端研究院 准教授）
- ☆ 愛媛県における水環境保全の取り組み
吉留 竜仁（愛媛県環境・ゼロカーボン推進課大気・水環境グループ 担当係長）

◆ 現地研修（視察）

- ☆ 瀬戸内海のエコツーリズムで学ぶ～来島海峡の歴史と魅力～
(一社)瀬戸内海エコツーリズム協議会
NPO法人自然環境ネットワーク SAREN、
今治地方観光ボランティアガイドの会
- ☆ 来島海峡について
上嶋 英機（(一社)瀬戸内海エコツーリズム協議会 代表理事）

◆ ワークショップ



講 義



現地研修（亀老山展望台公園/来島海峡説明）

⑤ 「小西和の伝記」に係る出版

明治44年に瀬戸内海を総合的に論じた「瀬戸内海論」を著し、瀬戸内海の国立公園化（昭和9年）に大きく貢献した小西和（ここにしかなく）の伝記を（特非）瀬戸内海研究会議より令和6年9月に出版した。

- ・発行部数：600部



(3) 提言に関する事業

知事・市長会議総会において、同会議より委託を受けた瀬戸内海の環境保全・創造に係る令和5年度研究成果について報告を行い、行政施策への活用への提言を行った。

- ・日時：令和6年7月31日（水）
- ・場所：岡山国際交流センター 国際会議室（岡山県岡山市）



(4) ホームページによる情報発信

研究会議が実施する各種事業の周知及び調査・研究事業の推進等を図るため、会員相互の情報ネットワークとして研究会議のホームページの運用・管理を行った。

3. 事業実施体制

(1) 会議に関する事項

① 令和6年度通常総会

- ・日時：令和6年8月28日（水） 17:55～18:35
- ・場所：高槻城公園芸術文化劇場 北館 中ホール（大阪府高槻市野見町 2-33）
- ・内容：第1号議案 令和5年度事業報告及び決算報告に関する件
第2号議案 役員の選任に関する件
報告事項1 令和6年度事業計画及び予算
報告事項2 会員の入会状況等

② 理事会

ア 第26回理事会

- ・日時：令和6年7月22日（月）
- ・場所：書面開催※
- ・内容：第1号議案 令和5年度事業報告及び決算報告に関する件（総会付議事項）
報告事項1 会員の状況
報告事項2 令和6年度通常総会の開催

※ 令和2年7月29日開催の第18回理事会で、7月の定例理事会は書面開催することとなった。

イ 臨時理事会

- ・ 日 時：令和7年5月19日(月)
- ・ 場 所：書面開催
- ・ 内 容：第1号議案 企画委員会委員の選任及び退任について

ウ 第27回理事会

- ・ 日 時：令和7年6月24日(火)
- ・ 場 所：神戸市内
- ・ 内 容：第1号議案 令和7年度事業計画並びに予算案に関する件
第2号議案 役員の選任に関する件（総会付議事項）
報告事項 平成6年度事業実施状況

③ 企画委員会

ア 第1回企画委員会

- ・ 日 時：令和6年11月5日（火）10：00～11：30
- ・ 場 所：神戸市立中央区文化センター 特別会議室（神戸市中央区）
- ・ 内 容：令和6年度事業の実施状況
令和7年度事業計画

イ 第2回企画委員会

- ・ 日 時：令和7年1月31日（金）10：00～11：45
- ・ 場 所：神戸市立中央区文化センター 1101号室（神戸市中央区）
- ・ 内 容：令和6年度事業の実施状況
令和7年度事業計画

ウ 第3回企画委員会

- ・ 日 時：令和7年6月13日（金）13：30～15：00
- ・ 場 所：神戸市立中央区文化センター 1003号室（神戸市中央区）
- ・ 内 容：令和6年度事業実施状況
令和7年度事業計画案並びに予算案
企画委員の選任
役員の選任

(2) 会員に関する事項（令和7年6月30日現在）

- ・ 会員数：個人会員 100名 団体会員 15名 合計 115名

(3) 連携団体

- ・ 瀬戸内海環境保全知事・市長会議
- ・ 公益社団法人瀬戸内海環境保全協会
- ・ 大阪湾広域臨海環境整備センター
- ・ 公益財団法人国際エメックスセンター